

(2021年7月29日配信)

NHK ラジオ深夜便 「明日へのことば」 8月5日(木)4時台

出演 ジャーナリスト 小暮 聡子

「戦犯となった祖父の思い伝えたい」

資料1. 戦後75周年企画 [連合軍捕虜の引き揚げの記録を初公開 ～あの日、何があったのか【Part 1】](#) ニューズウィーク日本版 [公式サイト \(newsweekjapan.jp\)](#)

資料2. [リアル『永遠の0』アメリカ人捕虜と語る「戦争犯罪人」としての祖父\(小暮 聡子\) | 現代ビジネス | 講談社\(1/3\) \(ismedia.jp\)](#)

資料3. [大好きなおじいちゃんが「戦争犯罪人」だった? 高2の夏に知った祖父の過去\(小暮 聡子\) | FRaU \(ismedia.jp\)](#)

聞き手 坂口 憲一郎

戦後36年生まれ、40歳の小暮聡子さんは、戦争について記憶も関心もない世代。高校生時代の聡子さんには、テレビで見る自由奔放なアメリカの若者達は、憧れの眩しい存在だったのです。そのアメリカに、大好きだったおじいちゃんが、戦犯、戦争犯罪者として裁かれ5年半もの獄中生活を課せられたとは、、なぜなのか。終戦当時、釜石捕虜収容所長だった祖父、稲木誠さんは、生前、娘や孫に戦争体験を語らなかったが、戦争体験を残しておきたいと、震える左手で文字を綴った。聡子さんは、祖父の裁判記録を国会図書館で調べ、アメリカに留学し、捕虜体験者を尋ね、話を聴く。おじいちゃんは、何をしたのか、、、。稲木さんは、8月15日から9月15日の捕虜引き渡しまで毎日日記をつけていた。原稿用紙にして132枚。貴重な記録だ。アメリカには、戦友会の世代が2代目、3代目に引き継がれているというのは驚きだ、、、。



—英連邦戦没者墓地(横浜市保土ヶ谷区)—

写真提供: [POW 研究会 POW Research Network Japan](#)

◆2017年8月5日「英連邦戦没者追悼礼拝に参加して」: [86tushin.pdf \(eec-bb2020.com\)](#)



私は、鎮魂の笛壺「はそう」を持参した。キリスト教の墓地には不似合いかもしれないが、迷惑にならないよう、静かにハソウを吹かせてもらった。追悼礼拝を立ち上げた亡き、永瀬隆さんと斎藤和明さんへの思いと、平和の誓いを胸に、静かに、長く吹かせて頂いた。坂口 憲一郎

◆ドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかけた男」

岩手上映会アンケート: [kuwajioei.pdf \(eec-2020.com\)](#)

永瀬さんが、残した言葉「戦争の非人間的な体験を、いろんな機会をとらえ、伝えなければいけない」、我々一人一人が受け継ぎたいものだ。坂口 憲一郎